基本構想で主に整理する項目（「未来の図書館、はじめます」岡本真 著 青弓者 P113）

- ・図書館環境・情報環境の実情と課題
- ・図書館の基本的な理念や基本方針
- ・図書館整備のおおまかな方向性
- ・理念や基本方針の基づいておこなうべきサービス像

将来的な西東京市図書館構想について（骨子案）

1 西東京市図書館の現状と課題

(1) 現状

西東京市図書館は、合併前の旧田無市・旧保谷市の6つの館をそのまま引き継いでおり、それぞれ田無駅付近に中央図書館、ひばりが丘駅付近の都営住宅内にひばりが丘図書館、保谷駅付近に保谷駅前図書館、西武柳沢駅付近の都営住宅内に柳沢図書館、谷戸都営住宅内に谷戸図書館、芝久保都営住宅内に芝久保図書館を配置している。また、その他、東伏見駅付近の東伏見ふれあいプラザと新町福祉会館で図書貸出サービスを実施している。

各地域館は、中央図書館を除き、いずれも1,000㎡前後の施設規模である。また、『中央図書館』と銘打っているが、20万都市に相応しい中央館の機能・規模とは言い難く、都内区市町村では地域館と同程度の規模といえる。

昭和50年（1975年）に竣工した中央図書館の法定耐用年数はおよそ50年ではあるが、現在の耐震基準に適応させるとともに、設備等の老朽化が著しいことから更新する必要があるため、令和3年度に耐震補強等改修工事を実施し、令和17年頃まで施設の使用が可能となった。また、都営住宅内に併設している芝久保図書館は令和14年頃までに、谷戸図書館は令和16年頃までに、柳沢図書館は令和19年頃までに、ひばりが丘図書館は令和26年頃までに耐用年数が到来する。

中央図書館では、令和3年度の耐震補強等改修工事の際に、衛生設備、空調設備や照明器具LED化等の更新を実施し、地域・行政資料室のレイアウト変更や、雑誌架、文庫架等の書架を入れ替えるなど、利用しやすい環境を整備したものの、それ以外の地域館5館では、平成27年度の芝久保図書館書架入替え増設以外、大規模な環境整備は行っていない。

また、中央図書館では、令和4年度にレファレンスサービスの拡充としてデータベース専用席を設置し、令和5年度に開館時間を午前9時からに拡大した。

なお、令和5年度から子ども電子図書館サービスを導入し、図書館サービス全体の拡充を図っている。

(2) 課題

①施設の老朽化

- ・中央図書館：昭和 50（1975）年建設。公民館併設。耐震補強と空調・衛生設備・LED 化等の工事はしたが、雨水・汚水などの配管更新、サッシ回りの改修はしておらず、外壁等も部分的な実施であり、将来的な施設の建替え又は廃止等の前に大規模な改修が必要となる可能性がある。
- ・芝久保図書館：昭和 57（1982）年建設。都営住宅内にあり、施設管理は公民館。梅雨時期になると開架室の床がゆがみ段差が発生し、部分的に改修しているが、根本的には床全面改修が必要。
- ・谷戸図書館：昭和 59（1984）年建設。都営住宅内にあり、施設管理は公民館。図書館入口に段差あり。書庫書架の経年劣化による老朽化が著しく修繕が必要。
- ・柳沢図書館：昭和 62（1987）年建設。都営住宅内にあり、施設管理は公民館。開架室北側のガラス面が羽目殺し窓のため、空調による換気となるものの、空調設備の更新がなされておらず、吹出し口、吸込み口からの空気量が少ない。ただし、令和 5 年度に空調設備が更新される。（空気の吸込み口や吹出し口は改修されない。）
- ・ひばりが丘図書館：平成 6（1994）年建設。都営住宅内にあり、単独施設。駅前のため駐輪場ゲート設置。外壁・雨漏り修繕が必要（令和 6 年度実施予定）。
- ・保谷駅前図書館：平成 20（2008）年建設。商業施設内にあり、施設管理は公民館。商業施設ビルに無理やり図書館機能を入れ込んでいるため、開架内の書架と書架の間が狭く、また、天井が低い。単独施設又は平屋建てのような開放感がある作りではなく、開架内に閉そく感があることは否めない。

②施設の狭あい化

- ・全館あわせての延床面積は 5817.45 m²、多摩 26 市で 12 位。
中央図書館は 1571.8 m²で多摩 26 市 22 位の狭さ。
- ・利用対象ごとのゾーニング（フロア分け含む）が完全にできていない。

③収蔵能力の限界

- ・全館あわせての蔵書冊数は 781,210 冊（令和 4 年度実績）、多摩 26 市で 10 位だが、開架閉架書庫とも満杯のため、悩みながら保存する資料や除籍の選別をしている状態。

④中央館の機能が果たせていない

- ・蔵書の保存庫としての役割が果たせず、地域館も担っている。
- ・地域行政資料が保存できず、外部倉庫に預けている（費用発生）。
- ・開架の一部をレファレンスコーナーとしているため、ゾーニングされているだけで居

室のように独立しておらず、集中して調べられる環境ではない。総合窓口カウンターでレファレンスも受けている状態。

- ・一般書のうち文庫新書の保存を保谷駅前図書館書庫及び芝久保図書館書庫が担っている。
- ・児童書のうち研修資料や市内1冊本の保存を谷戸図書館書庫が担っている。
- ・ハンディキャップサービスの作業等の拠点を谷戸図書館が担っている。
- ・職員の研修や会議をするための部屋が狭く1つしかない。
- ・事務室と作業スペースが同一空間のため、騒然としている。
- ・おはなし会等地域のボランティア団体や音訳点訳等のボランティアなど、活動する部屋がない。

⑤図書館の空白地帯

- ・現行の図書館計画で示している通り、6館それぞれを中心とし半径1kmの円を描くと北町、中町、泉町、富士町、東伏見、新町が、図書館を利用する際に離れている地域といえる。なお、図書サービスポイントとして新町福祉会館、東伏見ふれあいプラザ、返却のブックポストとして保谷駅北口、東伏見駅改札口前、保谷こもれびホール前に設置。

(3) 他自治体との比較（以下、資料を参照）

- ・資料5-1 令和4年度地区別館別貸出者数
- ・資料5-2 令和3年度都内26市図書館延べ床面積等比較
- ・資料5-3 都内類似団体等との比較
- ・多摩市立中央図書館（人口148,136人 R5.7.1時点）令和5年7月に建設。
敷地面積：4,273.31㎡ 延床面積：5,437.47㎡〔1階：面積1,844.59㎡ 収蔵数約17万冊 座席数約140席／2階：面積1,754㎡ 収蔵数約7.5万冊 座席数約320席／地下1階（事務室・閉架書庫）面積1,001.31㎡ 収蔵数約35.2万冊／地下2階（書庫・バックヤード・車両搬入口）面積837.57㎡ 収蔵数約3.5万冊〕

*多摩市立の地域館

地域館	施設概要	専有延床面積/閲覧席数	図書総数
東寺方	児童館・老人福祉館・地区市民ホールの複合施設	551㎡ 閲覧席数：17席	38,354冊
豊ヶ丘	児童館・老人福祉館・地区市民ホールの複合施設	508㎡ 閲覧席数：58席	46,005冊
関戸	商業施設内にあり。駅前。	1,045㎡ 閲覧席数：75席	95,531冊
聖ヶ丘	コミュニティセンター・学童クラブの複合施設	842㎡ 閲覧席数：30席	40,126冊
永山	公民館・消費者センターなどコミュニティセンター。駅前。	2,039㎡ 閲覧席数：66席	98,621冊
唐木田	コミュニティセンター・児童館の複合施設。駅前。	577㎡ 閲覧席数：45席	48,614冊
行政	行政資料室 多摩市役所第二庁舎内	100㎡ 閲覧席数：9席	11,378冊

2 これからの西東京市図書館構想

「西東京市図書館の基本理念」及び「私たちの望む西東京市の図書館」を実現させるために、20万都市にふさわしい西東京市図書館として、市民がいつでも来館できる環境と配置を考える。現在の6館規模が同レベルで、中央機能を補い合う図書館ではなく、中央館を中心としたネットワークで結ばれた地域館（子どもから高齢者まで徒歩で通える半径800m圏内）及び図書館空白地帯に学校やその他公共施設を活用したサービスポイントとして、現在及び未来の市民が利用できる、図書・情報機能を提供できるよう、生涯学習に応える図書館とする。

(1) 新中央図書館構想（課題を解決するために）

- ・専有延床面積の確保（多摩26市の中央館平均的規模3,300㎡、本市を除く類似団体中央館平均的規模4,100㎡）
 - ・蔵書の収容能力の底上げ（多摩26市の中央館平均図書総数401,555冊、本市を除く類似団体中央館平均503,366冊）
 - ・様々なサービスの拠点館（成人・児童YA・レファレンス・地域・行政資料室・ハンディキャップ・選書発注・相互協力・職員研修や会議・作業スペース）
 - ・閲覧スペースの充実（多摩26市の中央館平均129席、本市を除く類似団体中央館平均163席）
 - ・情報検索コーナー（インターネット環境（デバイス含む）を持たない方、利用できない方（単純にインターネットを利用するための端末）に対しての環境整備）
 - ・視聴覚コーナー（今後CDプレーヤーやPC内蔵型ドライブがどうなるかが不透明のため、図書館内で視聴できることが望ましい。DVDについても同様）
 - ・学習スペース
 - ・グループで活動するスペース
 - ・多世代交流によるコミュニティの場やイベントができる部屋
 - ・読み聞かせや話し声が聞こえるスペース
 - ・Wi-Fi環境の整備
 - ・飲食できるカフェの併設
 - ・保育室のような一時見守り託児室、授乳室
-
- ・西東京市の蔵書保存庫としての新中央図書館
 - ・新旧様々な情報を提供する新中央図書館
 - ・様々な媒体を提供する新中央図書館

(2) 今後の施設配置について

中央館機能を備えた新中央図書館と、利便性の高い場所にある駅付近に地域館5館、空白地帯に学校やその他公共施設を活用したサービスポイントを配置。